禁転載　©朝日新聞社
The Asahi Shimbun JAPAN'S LEADING NATIONAL NEWSPAPER
2010年２月８日（月）
朝日新聞 速報号外
朝日新聞
ご購読のお申し込みは
0120-33-0843

キリン・サントリー統合破談

持ち株比率で歩み寄れず

国内食品最大手のキリンホールディングスと同２位のサントリーホールディングスは８日午前、交渉していた経営統合を取りやめると発表した。両社トップが東京都内で会談して基本合意をめざしたが、新たに設立する持ち株会社の統合比率で歩み寄ることができず、交渉の打ち切りを決めた。

統合交渉は、グローバル戦略の加速と国内の収益基盤の強化を目的に、昨年始まった。しかし、サントリーが株式を公開していない非上場会社だったこともあり、将来の収益力や文化事業なども含めた企業価値の算定で両社の溝が埋まらなかった。

統合が実現すれば、売上高の合計は約３兆８千億円（2008年12月期）となり、「オレオ」などで知られる米クラフト・フーズなど世界の食品大手と肩を並べる規模になるはずだった。